



市ホームページ
はこちら

各マップは市ホームページからも確認することができます。台風接近時など災害が予想される際にはホームページにアクセスが集中し、つながりにくくなることも考えられます。いざというときに備え、**PDF版をスマートフォンなどにダウンロードしておく**ことをおすすめします。右記QRコードからご確認ください。

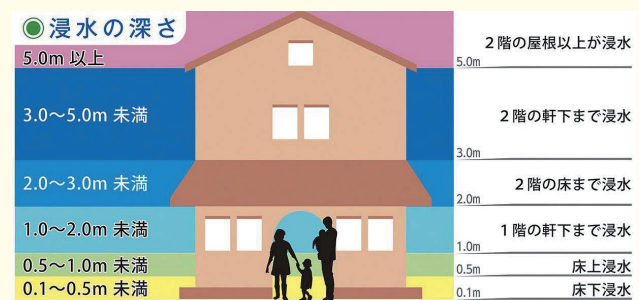


②洪水ハザードマップの浸水深より居室が高い

● 浸水の深さ

浸水の深さ	浸水状況
5.0m 以上	2 階の屋根以上が浸水
3.0～5.0m 未満	2 階の軒下まで浸水
2.0～3.0m 未満	2 階の床まで浸水
1.0～2.0m 未満	1 階の軒下まで浸水
0.5～1.0m 未満	床下浸水
0.1～0.5m 未満	床下浸水

③水が引くまで我慢でき、水・食糧・薬などの備えが十分にある



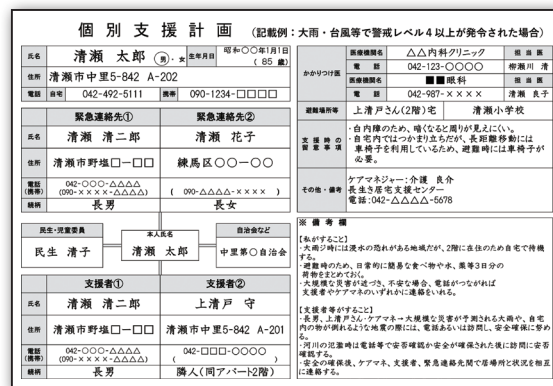
9月1日は「防災の日」です。今後30年以内に70%の確率で発生するといわれる首都直下地震や多発する豪雨被害に対して、ご家庭での備えはできていますか。災害から身を守るためには「自らの命は自らが守る」という意識がとても重要です。災害が差し迫った際にいかに行動できるかは日ごろからの備えに左右されます。今一度、避難行動などについて確認しましょう。なお、本号掲載記事のなかで、問い合わせ先の明記がないものも、下記までお問い合わせください。☎防災防犯課防災防犯係 ☎042-497-1847

- ◆**マスクの着用**をお願いします。
- ◆避難所の受付で検温を実施しますが、なるべく**自宅で検温を済ませて**ください。発熱している方など、新型コロナウイルス感染症の感染が疑われる場合は、別施設への移動や医療機関への搬送を検討します。
- ◆避難所の過密防止のため、他の避難所をご案内することもあります。その際は、ご協力をお願いします。
- ◆発熱や咳などの症状が出た場合は、すぐに運営スタッフに申告し、指示に従ってください。

災害発生時の対応は、多摩
小平保健所のホームページ
(右記QRコード
参照)を確認し
てください。



また、ご自身の支援者及び避難場所などについて決めておく「個別支援計画」の作成を推進しています。災害は突然発生します。あらかじめ支援者（家族や近所の方、日常的なケアに関わる方々など）と相談し、個別支援計画を作成しましょう。計画策定のポイントは、上記の「**避難所に持っていくもの**」や「**避難所での留意事項**」などを確認してください。ご不明な点は下記までお問い合わせください。



「個別支援計画」の用紙は、福祉総務課や、市ホームページから入手できます。

泥や落ち葉が詰まった雨水ます



綺麗な状態の雨水ます

令和元年、台風19号の大雨の影響により、大量の雨水が汚水管へ浸入したことで、下水道施設の処理能力を超えた水がマンホールから噴出し、水再生センター内が溢水するなど、甚大な被害が発生しました。市は、汚水管への雨水浸入調査などを行っています。また、大雨の際には、風呂や洗濯などの排水を抑制していただきますようご協力をお願いします。



マンホールからの噴出



浸水した水再生センター

●「雨水浸透ます」とは？
屋根に降った雨水を雨どいを通じて集め、地下に浸透させるための設備です。

●雨水浸透ます設置費用の助成
▶補助上限：15万円

市は、既存の戸建て住宅、共同住宅（住宅部分が2分の1以上のもの）を所有する個人に、雨水浸透ますの設置費用の一部を助成します。

地中に浸み込んだ雨水は地下水や湧水となってゆっくりと川に到達します。住宅などの敷地から道路排水路に流れ込む雨水の量が減ることで、浸水被害を抑制させることができます。

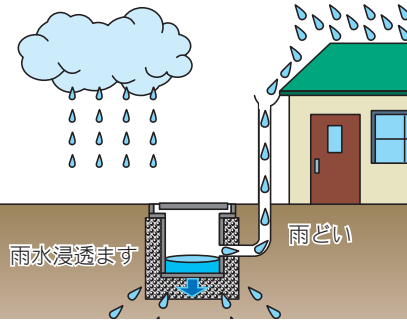
助成金・浸透ます・市内業者の案内についてなど、詳しくは下記までお問い合わせください。

下水道課施設計画係 ☎042-497-2532

都市化が進み、地面がアスファルトで覆われていくと、雨水が地中に浸透できず、道路排水路に流れ込む量が増えてしまいます。集中豪雨の際には、雨水を流しきれなくなり、浸水被害の要因のひとつとなっています。

その対策として、住宅などに雨水浸透ますを設置すると、まずに集められた雨水が地中に浸み込みます。

まずに集まった水は地中へ



まずに集まった
水は地中へ

参考：内閣府（防災担当）・消防庁「避難行動判定フロー」より作成